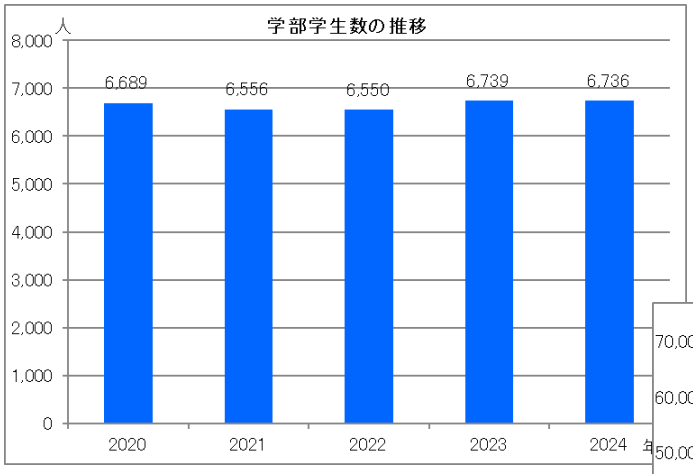
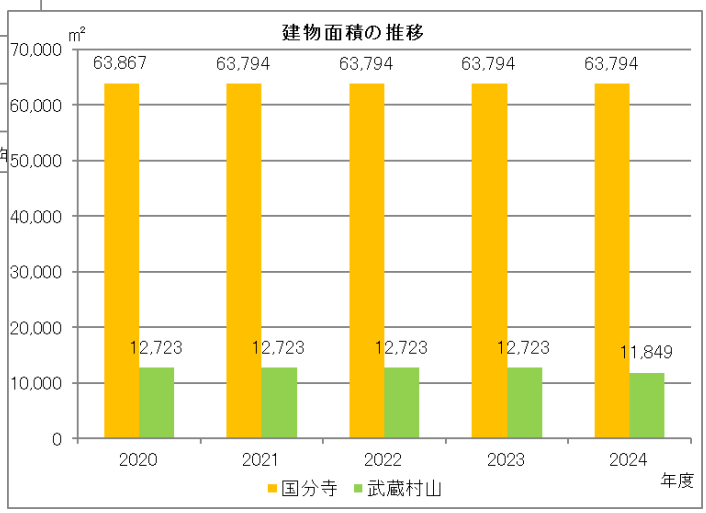
【１】基本データ（学生数・建物面積）

エネルギー・資源の使用量や廃棄物の排出量に直接影響する学生数、建物面積の推移です。過去５年間、大きな変動はありません。武蔵村山キャンパスの建物面積が減少しているのは、プール棟及びゴルフ練習場解体によるものです。

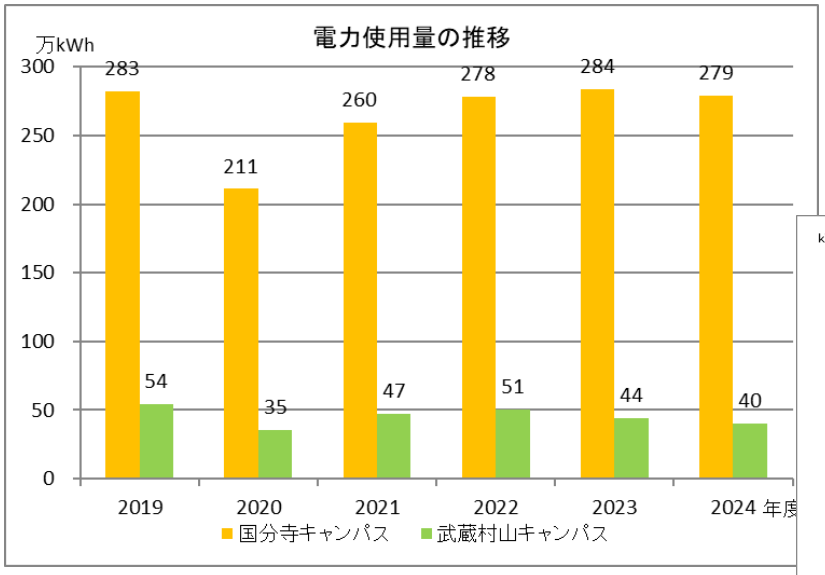


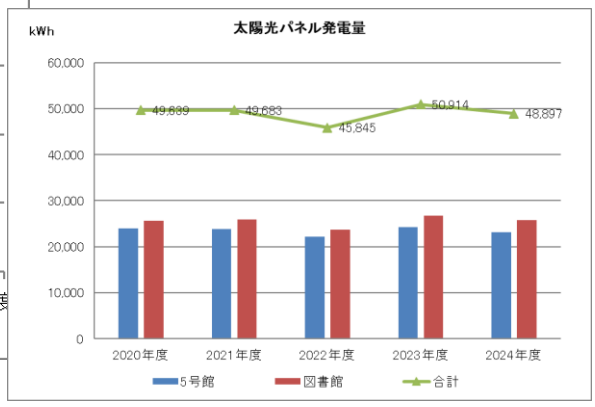


【２】エネルギー・資源使用量

（１）電力使用量の推移

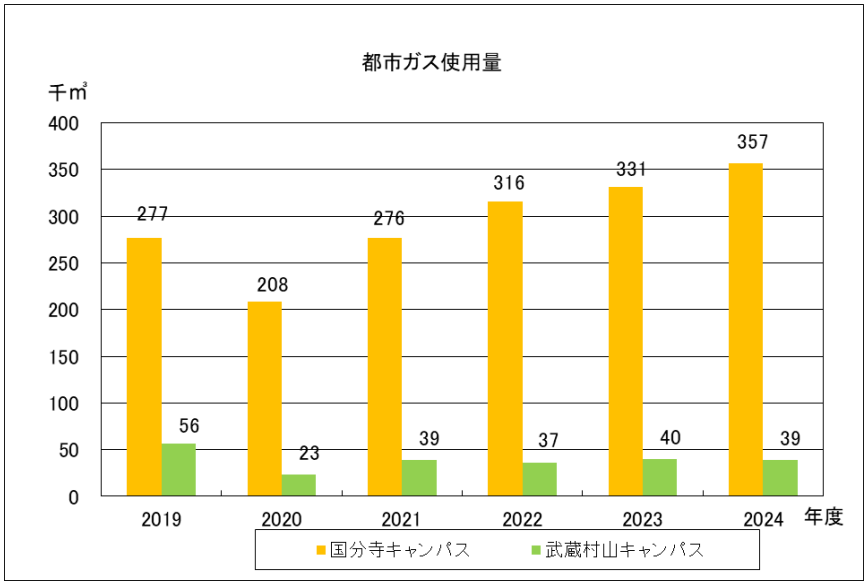
コロナ禍での入構制限により一旦大きく減少した電力使用量は、元の水準まで戻っています。換気強化等のエネルギー使用量の増加要素もある中、照明のＬＥＤ化の推進により、大幅な増加には至らずに抑制されている状況です。





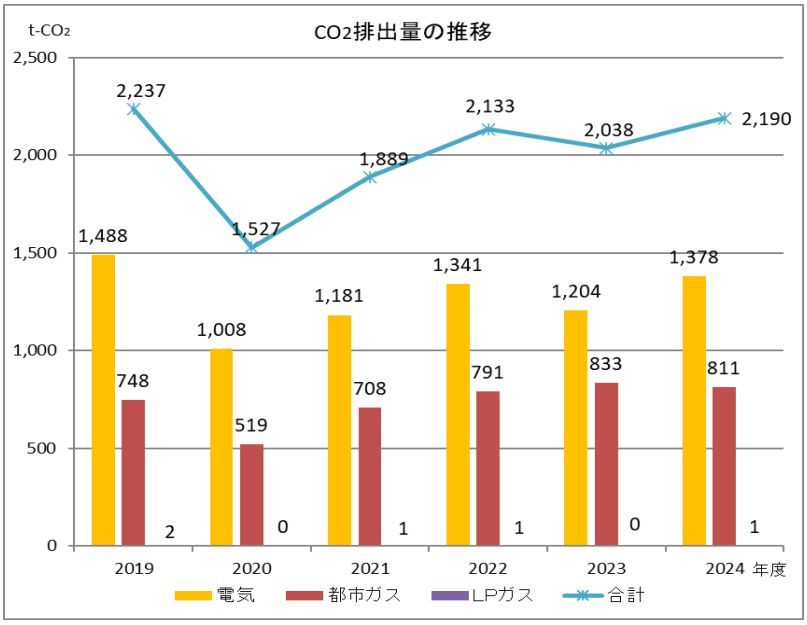
（２）都市ガス使用量の推移

ガス空調を使用しており、ガス使用量は空調の使用状況に大きく左右されます。真夏日や猛暑日となる日数が多かったことにより空調使用が増え、ガス使用量が大きくなっています。



（３）CO_2排出量の推移

電気使用量は微減となっていますが、電気事業者のCO_2排出係数が上がったことにより、。電気由来のCO_2排出量は増加しています。



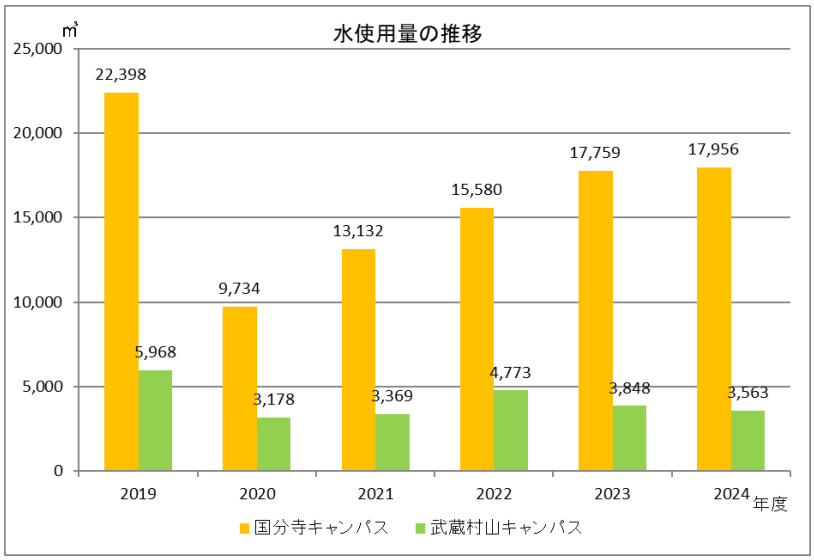
CO_2排出量は、温対法に基づく「算定・報告・公表制度」において指定されている以下の計算式により算出

電気：使用量（kWh）×0.000432（国が公表する電気事業者ごとの排出係数: t-CO_2/kWh）

ガス：使用量（千 m³）×2.05（国が公表するガス事業者ごとの排出係数: t-CO_2/千 m³）

（４）水使用量の推移

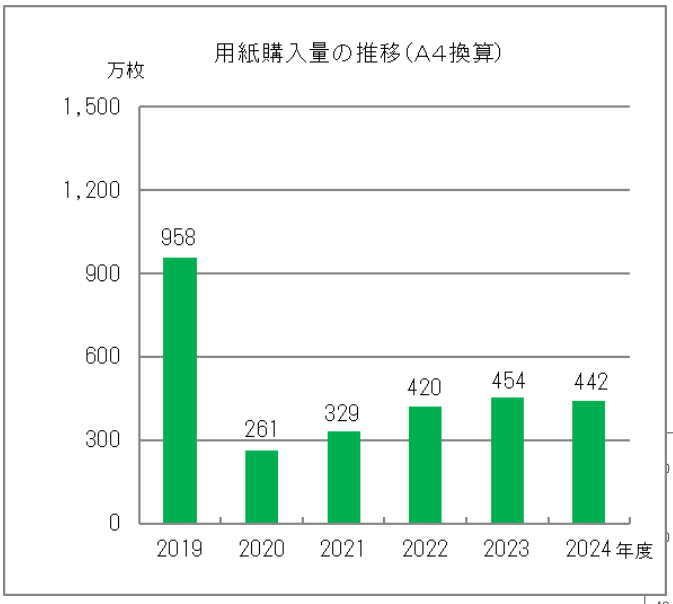
本学の水道は井戸水を汲み上げて使用しています。コロナ禍後、学生がキャンパスに戻ってきていますが、人数・滞在時間とも完全に戻っているわけではないことが読み取れます。

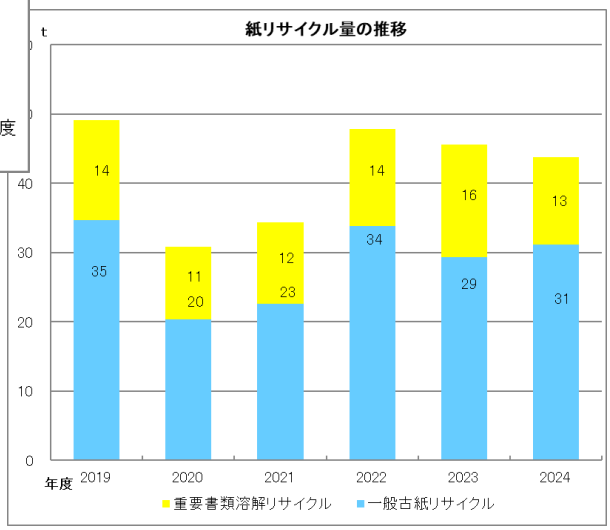


（５）用紙購入量と紙リサイクル量の推移

コロナ禍で、オンライン授業、オンライン会議の導入が進み、ペーパーレスが進んだことにより、キャンパスに人が戻った後も、用紙の使用量は低い水準のままとなっています。

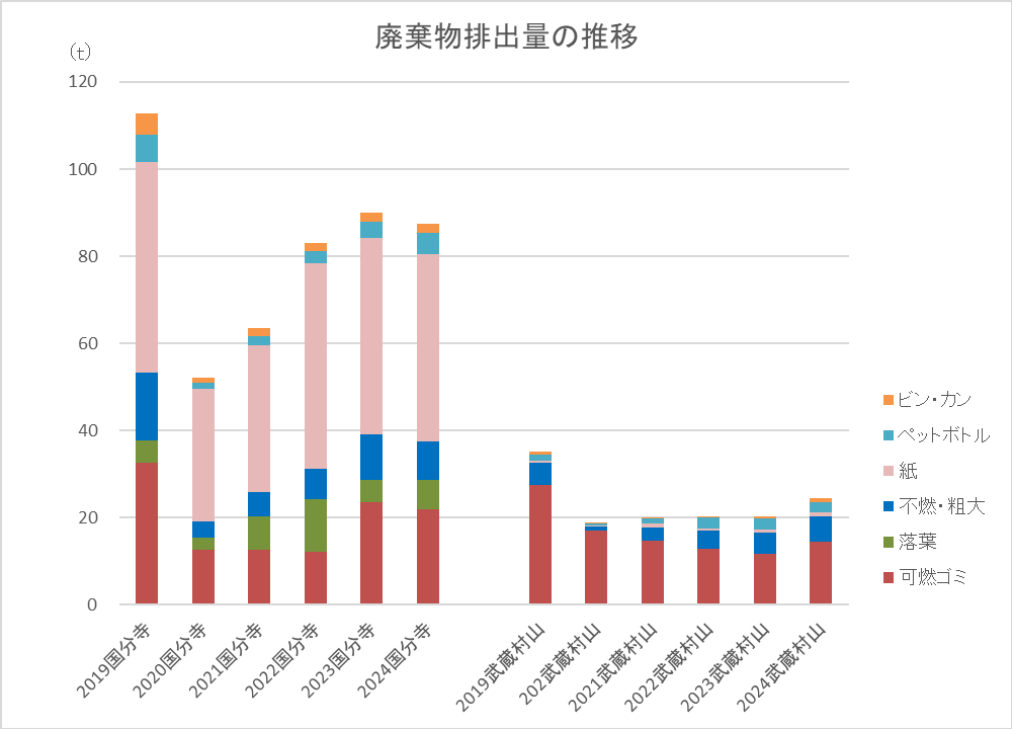
紙リサイクルについては、印刷物や過去資料の廃棄（リサイクル）もあるため、用紙使用量の増減と必ずしも一致していないところがあります。





【３】廃棄物の状況

水使用量と同様に、キャンパス内の学生数・滞在時間が完全には戻っていないため、ゴミ排出量も以前の量までは戻っていないものと考えられます。



可燃ゴミ　：自治体の処理場にて焼却処理されます。焼却灰はエコセメントに再資源化されています。
落葉　　：バイオマス燃料として再資源化されています。
不燃・粗大　：処理場にて材質別に分別・破砕後、フラフ燃料等として再利用、セメント原料等に再資源化等の再利用・再活用が行われています。
紙　　：再生紙として再資源化されています。
ペットボトル：ボトル、食品トレイ等の原料、各種繊維類等に再商品化されます。
ビン・カン　：新しいビン・カン原料や、金属材料、道路等の原料として再資源化されます。